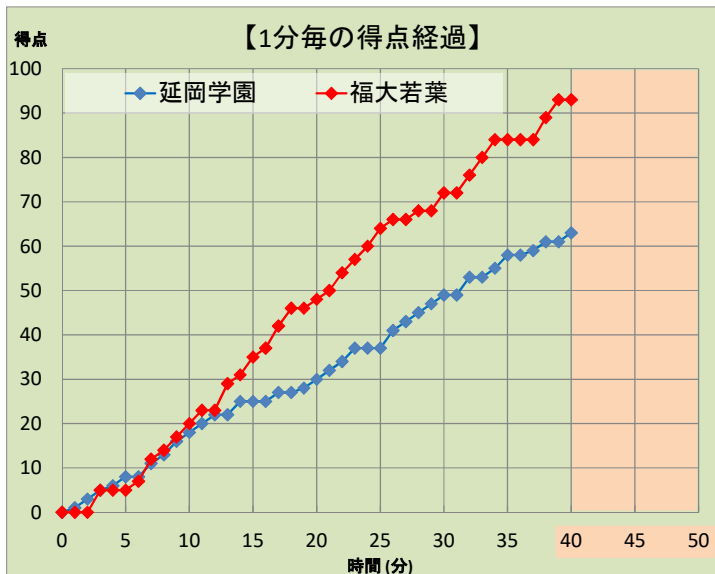


## 第49回全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会



会場	福岡市総合体育館	
日時	平成31年3月24日 (日) 12:00	
コート	Bコート	第3試合
カテゴリー	女子	準決勝
主審	潮平 朝一郎	
第1副審	堤 哲也	
第2副審	藪崎 康平	

TEAM A		TEAM B															
延岡学園 63	<table border="1" style="margin: auto;"> <tr><td>18</td><td>1st</td><td>20</td></tr> <tr><td>12</td><td>2nd</td><td>28</td></tr> <tr><td>19</td><td>3rd</td><td>24</td></tr> <tr><td>14</td><td>4th</td><td>21</td></tr> <tr><td colspan="3">OT</td></tr> </table>	18	1st	20	12	2nd	28	19	3rd	24	14	4th	21	OT			93 福大若葉
18	1st	20															
12	2nd	28															
19	3rd	24															
14	4th	21															
OT																	
宮崎1位		福岡2位															
●		○															

### 【BOXスコア】

TEAM A		延岡学園高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
4	佐藤 亜美	0					
5	デンベル サナタ ○	20		7	6	3	
6	谷ノ口 陽菜	0				1	
7	笹栗 圭夏 ○	11		5	1	1	
8	甲斐 心温	0					
9	岩切 陽菜	0					
10	慎野 綾乃 ◎	9	1	3			
11	柳田 蘭	0					
12	河野 すみれ	3	1			1	
13	塩月 絢音 ○	11	1	3	2		
14	西野 彩音 ○	5	1	1			
15	ムボムボ ムロロ ファーロン	0					
16	黒木 江美里	0					
17	上野 瑞綺	0					
18	米倉 蒼乃	4		2			
コーチ	内村 昌弘						
合計		63	4	21	9	6	

TEAM B		福大若葉高等学校					
番号	選手名	得点	3P	2P	FT	反則	
4	中嶋 ゆめ ◎	18	2	6			
5	永野 真光 ○	23	2	7	3	1	
6	吉岡 柚葉	3	1				
7	幸丸 嘉乃	0					
8	白土 友恵	9	1	3		3	
9	留森 杏実 ○	2		1		3	
10	川上 楓華	0					
11	磯野 志歩 ○	13	1	5			
12	田代 沙也佳	0				1	
13	下地 美和	0					
14	和田 春菜	19		9	1	2	
15	中村 愛結 ○	6		2	2	4	
18	船橋 茉生	0					
コーチ	池田 憲二						
合計		93	7	33	6	14	

### 【戦評】

全九州大会シード決定戦、宮崎県1位延岡学園対福岡県2位福大若葉との対戦。スターティングメンバーは、延岡学園が、#5、#7、#10、#13、#14。福大若葉が、#4、#5、#9、#11、#15。第1Q、ディフェンスは延岡学園、福大若葉ともにマンツーマンで、開始早々からインサイドのポジション争いが激しく、若葉が延岡の#5をいかに抑えるかがポイントとなった。延岡は#5を中心にリバウンドを確保し、ドライブを中心とした攻撃を展開。福大若葉は#14、#15のセンター陣が、延岡#5をフルフロントでマークし、開始4分オールコートマンツーマンでプレッシャーをかけ、#4のインターセプトからのドライブで得点した。残り1分、延岡#10の3ポイントシュート成功に対して、若葉#14がファールをもらいながら、ゴール下シュートを決め、さらにフリースローを沈め、若葉が、第1Qは20対18でリードして終了。第2Q、出だしから若葉が#5のドライブでリズムをつかみ、残り5分、#4が連続でシュートを決め、33対25にリードを広げ、延岡はタイムアウト。その後も若葉はオフェンスリバウンドや#8の得点でゲームを優勢に進める。#14が延岡#5に思いどおりのプレーをさせなかった若葉が、第2Qを48対30でリードして終了。第3Q、延岡は#10のドライブや#13のロングスリーなどが入るが、若葉が#5から#11のブラインドサイドへの合わせ、#5の絶妙なインターセプトやドライブなどで得点を重ね、第3Qを72対49でリードして終了。第4Q、延岡は#5への合わせやドライブで追い上げようとするが、若葉の運動量も変わらず、一進一退の攻防が続く。残り2分、若葉が#6の3ポイント、#14のゴール下シュートなどでリードを広げ、インサイドのディフェンスを最後まで粘り強く続けた若葉が、93対63で勝利した。両チームともに、インサイドとアウトサイドのバランスのとれた攻守が展開できる総合力の高いチームであった。

【戦評記者】 石井 雅太  
福岡県バスケットボール協会